



「うしろに目になかった」です。



婦人会も民謡おどりにきやかに。



銃剣道愛好会も参加



「いつもだとよく入るんだろも…」障害物競争



仲よく「いちに、いちに」いっとう賞!!



負けられません。勝つまでは「年代別リレー」



「ホラ火をけすなよ!!」



煙草リレー

むかでリレー

「死にもものぐるいで走れよ!!」

**歳時記**

## 七五三

あるデパートの電話交換手さんとのやりとり、

「もしもし、七五三の服装のこと取材したいのですが、係りの方を」

「はい、大人用ですか、子供用ですか」

「えっ、七五三は子供の祝いじゃないんですか」

七五三ともなれば、子供もさることながら、この時とばかりママが和服を新調するケースが多いので、大人用の七五三担当者もいるらしい。

七五三を祝う習慣が、いまのように全国的になったのは、明治以後の商業主義のためといわれています。このデパートでも「七才の女兒に二十〜三十万円かけるのはまあ普通。四月から担当者をおいています。」とケロリ。『主客転倒』もここまできたかと考えさせられます。

また七五三の宮参りは氏神さまへというのは普通ですが、最近ではわざわざの人も多く、有名神社に出かける人が多い

もともと、男児の五歳、女の三歳、七歳にお宮参りするのが固定したのは古いことではありませんが、乳児〜幼児少年・少女と子供の成長の節目を祝う習慣は古くからあります。たとえば、男児五歳の「はかまぎ」、女児七歳の「おびとき」は武家に伝わる風習でした。

七五三につきものの千歳飴は、元禄ころから浅草で売られていたとか。

また、十一月十五日がウィークデーに当たる日は、その前後の土曜日、日曜日に両親そろって参拝するケースが圧倒的に増え、この日は、マイホームパパにとってもうれしい「晴れの日」のようです。



## —第10回村民運動会から— (スナップ集)

第10回村民運動会は、10月8日に絶好の運動会びよりのなか、盛大に、楽しく行われました。以下、楽しかった一日をスナップ集で紹介いたします。



保育園児の「おゆうぎ」です。



「ラジオ体操なんて何年ぶりかしら。」



選手宣誓「かっこいい!!」



小学生リズムのトランペット鼓隊の勇姿  
「バトンガールもステキヨ!!」



長距離競争「ボクだけおとな」でした。



勝った〜バンザイ「つなひき」



わたしほんとに美人ね「アメ玉さがし」



人生は長い、ゆっくりと「老人競歩」



消防団も機敏なところをみせてくれました。



「ソーレ!!チャチャチャッ」応援風景